

令和5年度 鹿角市立尾去沢小学校 学校評価書

目標	市の施策の基本方向	評価指標（学校の実践課題）	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	市の施策の柱
			中間	中間	年度末	年度末	
確かな学力と高い志を育てる教育の充実	基本方向1 自己実現のために必要な確かな学力の定着を図ります。	主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善 基本的な学習習慣の定着と学力の向上 読解力育成のための読書活動の推進	3	3	3	3	①なぜ学ぶのかを明確にした主体的・対話的で深い学びの実現 ②望ましい学習集団の育成による児童生徒の学力向上対策 ③読書活動の推進と読解力の育成
	基本方向2 自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材を育てます。	キャリア諸能力の育成のための体験的活動の充実 ふるさととよさに気づき愛着心を醸成する活動の充実 ふるさとに元気を届ける活動を通じたふるさとを支える気概の育成	3	3	3	3	①社会的・職業的自立を目指した教育活動の推進 ②ふるさとへの理解を深める体験的な活動の推進 ③鹿角市の未来を支え盛り上げる人材の育成
	基本方向3 情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材を育てます。	1人1台端末を活用したGIGAスクール構想の推進と情報モラルの育成 外国語教育・国際理解教育の充実と自分自身のアイデンティティを確立するための教育活動の充実 学んだことを発信する能力の育成	3	3	4	4	①ICTを活用した情報活用能力と情報モラルの育成 ②グローバル化に対応する能力の育成 ③他地域との交流によるコミュニケーション能力と発信力の育成
豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育	基本方向4 豊かな心を育みます。	自己有用感と主体性を育む学級づくりの推進 思いやりの心を育む道德教育の充実 様々な人たちとの交流を通じた自他を大切に作る心の育成	3	4	4	4	①自己有用感と主体性を育む学習集団の育成、 ②規範意識や思いやりなどを育成する道德教育の充実 ③共生社会の形成に向けた人権教育の推進
	基本方向5 健やかな体を育みます。	よりよい生活習慣の定着 望ましい食習慣の形成 継続的な体力づくりの実践による体力の向上	3	3	3	3	①規則正しい生活習慣の確立 ②食育の推進 ③体育授業及び運動部活動の充実と体力の向上
	基本方向6 子ども一人一人に応じた、きめ細かな教育を推進します。	特別支援教育の充実 園・小・中の円滑な接続につながる効果的な連携 不登校、問題行動等の未然防止のための取組と対応	3	3	4	4	①特別支援教育の充実 ②就学前相談の充実と小・中学校との円滑な接続 ③不登校児童生徒の居場所づくりと学校復帰に向けた支援の充実
学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育	基本方向7 子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場をつくりまします。	校舎・校地の日常的な点検・整備等による安全・安心な環境づくり 通学路の点検と効果的な下校指導 各種避難訓練の計画的実施と安全計画（危機管理マニュアル）の改善と活用	4	4	4	4	①安全・安心・良質な学校環境づくりの推進 ②通学の安全対策 ③学校の危機管理対策
	基本方向8 教職員のモチベーションと資質の向上を図ります。	主体的に学び、共に高め合い、分かる楽しさを実感できる子どもを育成する校内外の研修の充実 人事評価制度を活用した各キャリアに応じた研修の充実 業務改善計画による教職員の働き方改革の推進	3	3	4	4	①教職員研修の充実 ②人事評価制度とキャリアアップ研修の充実 ③教職員の働き方改革の推進
	基本方向9 地域とともに特色ある学校づくりの推進に努めます。	学校運営協議会の充実、熟議の内容や学校評価結果を生かした経営改善の推進、保護者・地域への積極的な情報発信 地域人材やボランティア、地域素材の積極的な活用 特色ある学校経営の推進と評価	3	3	3	3	①学校運営協議会を核としたコミュニティ・スクールの推進 ②地域学校協働推進事業による学校の活性化 ③学校の創意工夫による特色ある学校経営の推進

<参考表示>

5	きわめて良好
4	良好
3	おおむね良好
2	やや不十分
1	努力を要する

5	実現状況は極めてよい	達成率90%以上
4	実施状況は良好である	達成率80~90%
3	実施状況はおおむね良好である	達成率60~79%
2	実施状況はやや不十分である	達成率50~59%
1	実現状況は不十分で努力を要す	達成率49%以下

基本方向 1 「自己実現のために必要な確かな学力の定着」

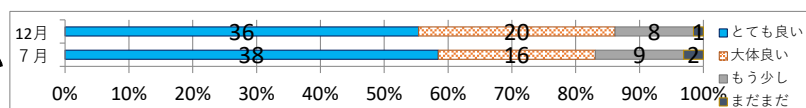
児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	基本的な学習習慣を身に付け、前向きに学習に取り組む児童が多い。反面、対話する力、説明する力、正しく読み取る力に関しては課題がある。	中間	3	中間	3	前向きに学習に取り組んでいる印象がある。対話や説明する力は大切なので伸ばしてほしい。あおぞらぶっく号やたっぶり読書の日を通して、本に親しんでいる取組がよい。
年度末	学習習慣を身に付け、めあてを達成するために一生懸命取り組んでいる。対話の楽しさを味わい、表現力が少しずつ向上してきている。読書に親しみ、幅も広がってきた。	年度末	3	年度末	3	学習に対する姿勢が高いと思う。また、学校の玄関ホールにおすすめの本を置いたり、あおぞらぶっく号を活用したり、宿題を読書にしたりすることで、目標を達成できていると思う。
自己評価の概要と学校の改善策		<p>【中間評価】昨年度から研究している理科・生活科を中心に、学校全体で授業の流れを確認したり対話したりする活動を積極的に取り入れたりしてきた。アンケート結果を見ると保護者・児童共に学習に対する意欲や取組状況に対して肯定的な意見が多かった。さらに児童が主体的・対話的に学習に臨めるよう教職員全体で研鑽を積んでいきたい。</p> <p>2週間に1度のあおぞらぶっく号の来校、たっぶり読書の日（毎週木曜日）の設定等、子どもたちが読書に親しめるようにしている。また、読書の幅を広げられるように、学年おすすめの5冊を掲げ、様々な本に親しめるようにしてきた。若干ではあるが、読書に苦手意識をもつ児童の割合が減少した。秋の読書期間も様々な方策をとってきたい。</p> <p>【年度末評価】鹿角教研に向けて、理科・生活科を中心にして研究を進めてきた。研究の重点「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つを中心に、職員全体で共通理解を図ってきた。課題設定、ICTの活用、評価の充実等、授業研究を通してたくさんの成果が得られた。これらの成果を日常の授業実践により生かしていけるよう、今後も研鑽していきたい。</p> <p>今年度は、児童の実態を踏まえ「学習の約束」の見直しを図り、指導に生かしてきた。また、表現力向上を目指して、対話と作文スキルアップを設定した。読書指導では、図書委員会の活動と関連させながら意欲の喚起に努めてきた。結果として、秋の読書月間では全校児童が目標達成することができた。これらの諸施策により、アンケート結果では学習・読書に対して肯定的な意見が多く見られた。今後も意欲的に学習・読書に取り組めるよう、方策を講じていきたい。</p>				

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・「研究の重点」に基づく授業研究と実践 ・研究授業による仮説の検証 ・日常授業への研究成果の還元
基本的な学習習慣の定着と学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の約束」の確認と徹底 ・家庭学習の手引の活用とお手本ノートの掲示・紹介 ・対話的な学びの充実のための掲示資料の活用
読解力育成のための読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・昼読書や読み聞かせ、家庭学習読書の日、移動図書館との連携など読書活動の充実 ・読書の広がりやねらった学年おすすめの本の設定

<資料>

児童

進んで読書に親しんでいる

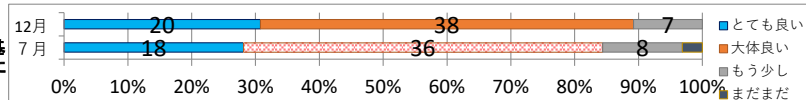


※4が最高値

アンケート平均
年度末 3.4
中間 3.4

保護者

お子さんは学習したことの基礎・基本を身に付けている



アンケート平均
年度末 3.2
中間 3.1



ICTを活用して、グループ活動を行っています。



対話により自分の考えを深めることができました。



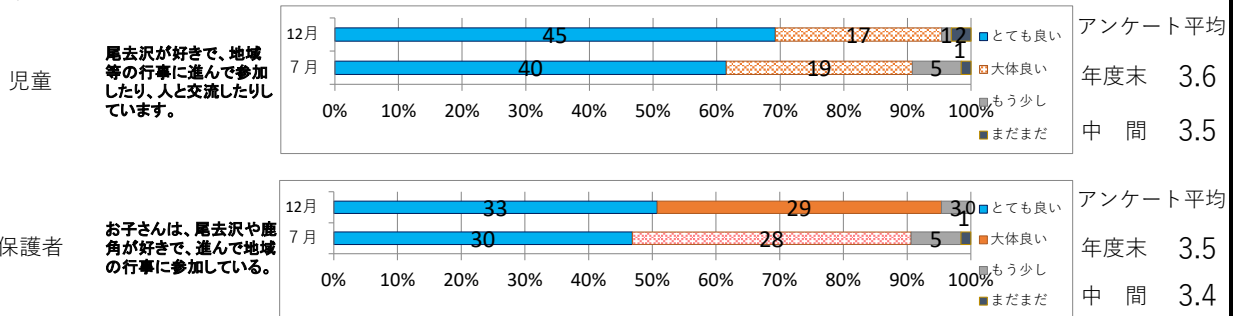
昼読書や読み聞かせにより、本が好きな児童が増えました。

基本方向2 「自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	アンケートの結果から、本校の児童は、地域に対する関心は高いと思われる。今後、さらにそれを進め、自ら参画する意識の向上を目指す。	中間	3	中間	3	ふれあひかなやまスクールの取組は長い間続いていて、外部からの評価も高い。子どもの人数が減少しているため、取り組み学年を見直してもよいのではないかと。また、保護者がもっと参加できるように、お知らせする時期を検討してほしい。
年度末	様々な活動を通して、地域に関する知識が増えてきている。今後は自分たちが地域のためどのようなことができるのかを考え、より主体的な活動を目指す。	年度末	3	年度末	3	学習の中に市民センター事業（ふれあひかなやまスクール）を取り入れていることで、自分の住んでいる所に興味をもてる機会となっている。子どもたちに地域学習が根付いてきていると感じる。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】今年度は、学校生活における諸活動が、新型コロナウイルス感染症の流行以前に戻りつつあり、昨年度以上に地域と一緒に活動を行う活動を充実させることができている。また、尾去沢市民センターをはじめ、様々な外部指導者に協力していただいていることもありがたい。今後も地域に元気を届けるという目標に向かって、さらに児童自身の思いやアイデアをもとに活動を工夫をしていく。また、キャリア教育の視点をもたせ、様々な活動において意識付けを図っていく。					
	【年度末評価】「ありがとう集会」では、お世話になった地域の方々に感謝の気持ちを伝えることができた。地域とのつながりを意識したり、自分たちができることを考えたりするよい機会になった。新かなやま運動では、今年度から「まもり伝えようわが尾去沢」の項目についての目標を立て、実践することにした。長期休業中を利用して、地域に目を向けるきっかけになった。来年度は、学校創立150年の節目となるため、さらに地域について理解を深める場面が多くなる。児童のアイデアも取り入れ、より主体的な活動を目指していく。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
キャリア諸能力の育成のための体験的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 育成するキャリア能力を明確にした体験活動の計画と実施 交流や作成した資料を活用したよさを発信する活動等
ふるさとのよさに気付き愛着心を醸成する活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「かなやまソーラン」、「からめ節」、「刻の翼」等伝統の継承、ボランティア活動の実施
ふるさとに元気を届ける活動を通したふるさとを支える気概の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「ふれあひかなやまスクール」での交流 「ありがとう集会」の実施

<資料>



【ふれあひかなやまスクール】
これまでお世話になった地域の方々を招き、一緒にだまご鍋を味わった。その後、ありがとう集会で感謝の気持ちを伝えた。



【地域との連携】
地域の防災への取組を学んだり、市民センターまつりに参加したり学校内だけではできない活動をする事ができた。



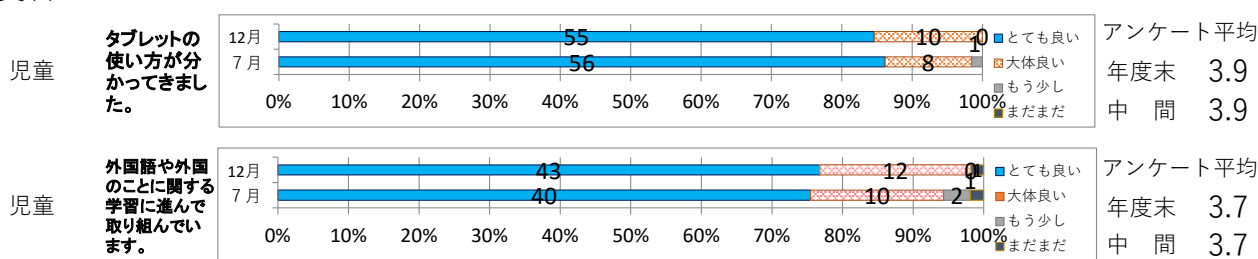
【新かなやま運動】
今年度は、「まもり伝えようわが尾去沢」の項目に目標を特化し、地域の特色を意識した活動が見られるようになった。

基本方向3「情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	タブレットの使用に関して、多くの児童が興味関心を持っている。タイピング技術や基本的な操作方法、情報モラルなどが課題である。新任のALTとの交流は楽しんでおこなっている。	中間	3	中間	3	タブレットの使用により情報収集能力や関心は高まっているが、操作方法や活用能力には個人差があると思う。情報モラルについても保護者と共有してほしい。
年度末	学習や係活動など多くの場面で、タブレットを活用している。年度初めに比べ、情報活用能力がさらに向上していると考え。外国語の授業では、音声や表現に親しみ、ALTと積極的にコミュニケーションをとっている。	年度末	4	年度末	4	情報が多様化している中で、子どもたちには吸収する力があるように思う。また、子どもたちの学習意欲が高まっているようにも感じる。様々な情報を得やすくなった反面、家庭の理解と協力の下、使用方法について確認して欲しい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 タブレット端末の活用は3年目になる。教員が学習の中で効果的に活用するという段階へとステップアップしてきている。今後は、他校の活用事例等を教員間で共有したり、研究授業で積極的に使用したりすることで研修を深め、全教員が授業で効果的に活用できるようにしていく。外国語では、週1回のALTの来校をより効果的に活用していきたい。そこで、ALTとの会話から自然な英語に触れさせたり、児童に音声機器を活用して英語に慣れ親しませたりする時間を十分に確保していく。授業外には、担任からALTへの要望の伝え方を工夫し、限られた時間で充実した打合わせを行う。					
	【年度末評価】 タブレットの活用に関する児童の自己評価の数値は高い。授業や学校行事でのタブレット端末の活用を積み重ねてきた結果、児童はより適切に情報機器を活用することができるようになっており、機器の活用に自信をもっていることがうかがえる。今後は、プログラミングや児童同士でのタブレット活用法を共有する等、より高度な学習につなげていきたい。外国語の学習についても、児童の自己評価は中間よりも高くなっている。歌やチャンツなどを繰り返して表現に慣れ、ALTとのコミュニケーションに生かすことができている。外国語を学ぶ意義をよりはっきりと実感し、学ぶ意欲を喚起できるような発表やコミュニケーションの場面設定を工夫していきたい。また、事前にALTと授業内容や役割分担について話し合っていきたい。					

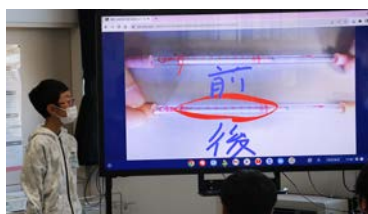
評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
1人1台端末を活用したGIGAスクール構想の推進と情報モラルの育成	<ul style="list-style-type: none"> 情報教育推進委員会による職員向けICT通信の発行 ICTを活用した授業を見合う会の実施と職員研修の充実 情報モラル指導資料の作成と活用
外国語教育・国際理解教育の充実と自分自身のアイデンティティを確立するための教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ALTと連携した学習 デジタル教材、デジタルコンテンツを活用した授業 日常生活において英語を使用する機会の確保
学んだことを発信する能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 発信する場の設定 ICTを活用した発信の工夫

<資料>



【動画撮影】

タブレット使って動画を撮影することで、何度も見返すことができ、理解が深まります。



【写真撮影】

実験結果を撮影することで視覚的に理解しやすくなります。また、全体で共有しやすくなりました。



【ALTとの交流】

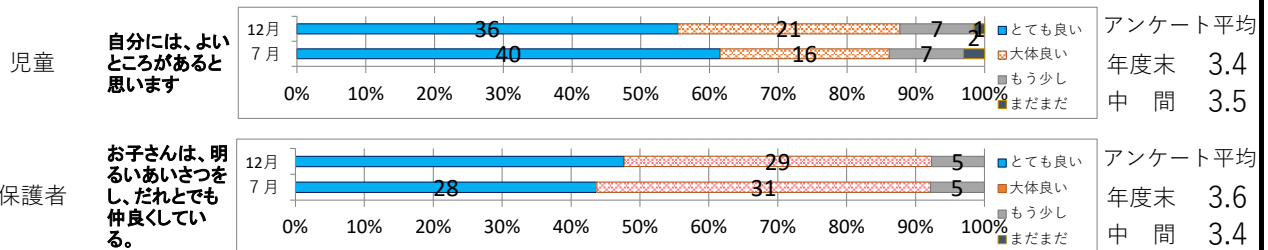
子供たちは、ALTの発音を聞いて繰り返し発音したり、会話を楽しんだりしています。

基本方向4 「豊かな心の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	日々の学習活動や行事等に積極的に取り組もうとしている。また、他校や他学年の児童と進んで交流したり、友達とよりよく関わろうとしたりする姿が見られている。	中間	3	中間	4	登校時に上学年が1年生と手をつないでいる姿を見る。少人数の学校のよさを生かして他学年との関わりが多く、優しさや思いやりの気持ちが育っていると感じる。他校との交流も、人との関わりを広げるよい機会となっていると思う。
年度末	日常生活において他学年と積極的に関わろうとする児童が多く見られた。委員会や係活動などの活動を中心にして、児童が互いに関わろうする力が付いてきたと感じる。	年度末	4	年度末	4	少人数ならではの良さを生かし、対人関係の大切さを学ぶことができると思う。異学年交流が様々な場面でできると思うし、そこで学ぶことも多いと思う。自分と自分以外の人の良さに気付く機会を与えてくれていると思う。
自己評価の概要と学校の改善策		【中間評価】 他校と交流したり、他学年と作った資料を発表し合ったりする機会を設定し、コミュニケーション能力や発信力の醸成に努めてきた。児童会活動では、各委員会の特色を生かしながら児童の企画をもとに活動し、自己有用感をもたせつつ主体性を育ててきた。今後も、様々な場面で自己決定の場を大切にし、自己有用感を高められるようにしたい。また、研修の機会を設け、道徳教育の充実を図っていきたい。				
		【年度末評価】 特別活動（学級活動や委員会活動等）を中心に、児童が主体的に活動する姿が多く見られた。児童と活動の目的を共有し、合意形成を大切にしながら活動を進めることで、児童が主体的に活動できたと考える。一方で、学校生活に満足していない児童も少数見られることから、今後も児童同士による認め合いや教師による称賛や励ましを大切にして教育活動を推進したい。また、2学期PTAでは全学級が道徳の授業を保護者に参観していただいた。今後も更に研修を深め、授業の充実を図るとともに、家庭と連携を密にして児童の豊かな心の醸成を目指していきたい。				

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
自己有用感と主体性を育む学級づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ hyperQ-Uを活用した学級づくり ・ 活躍の場の意図的設定や称揚と相談活動の継続 ・ 児童理解の機会の設定と活用
思いやりの心を育む道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ かなやま運動などを通じた、明るくあいさつと礼儀正しい生活態度の育成 ・ 道徳科授業の充実のための研修
様々な人たちとの交流を通じた自他を大切にする心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他のよさに気付く場の設定 ・ 児童会によるいじめ防止活動や係活動・委員会活動等の活性化

<資料>



なかよし集会



兄弟学年でのサツマイモ掘り

基本方向5「健やかな体の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント															
年度初め	遊びやスポーツで運動する機会の少ない児童の体力低下や、メディア利用の時間が長い児童の健康が心配である。歯科検診により歯垢付着を指摘された児童は約5割。	中間	3	中間	3	体力の差も大きくなっているのではないかと感じるので、年間を通した体力づくりを続けてほしい。メディア利用については健康面だけでなく、子どもたちの考え方にも影響が出ていると感じる。															
年度末	熱中症・感染症対策や熊出没の影響で児童の活動を制限する日が多かった。児童の体力低下、メディアの長時間利用について引き続き注視する必要がある。	年度末	3	年度末	3	学校以外で運動する子が少ない感じがし、体力低下が心配される。マラソンや縄跳びなどを学校全体で取り組み、体力の向上を目指すことは良いことだと思う。メディア利用については、ルールやマナーを守るよう、日頃から家庭でのコミュニケーションが必要であると感じる。															
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】 朝運動は、体育委員の協力（呼びかけや手作りカード）も意欲付けとなり、全校で運動する時間として定着してきた。保健集会では「歯と口の健康」に関する講話を全校児童と保護者が共に聴くことができた。各学年で歯磨き指導を行い、夏休みには家庭に歯の染め出しをお願いした。これらを生かして丁寧な歯磨きの意識付けを図っていく。メディア利用に関しては、10月に小中連携で保健集会と学校保健委員会を計画しており、改善に向けた全体的な取組を探る他、特に心配される児童には個人的な働きかけをしていく。</p> <p>【年度末評価】 朝運動は、実施できない日もあったが、熱中症・感染症対策をして可能な限り実施した。11月の118（いい歯）ウィークでは、1学期や夏休みの取組を振り返ってから個人で目標をもって取り組むことができた。メディア利用に関しては、10月に保健集会と小中合同の学校保健委員会を開き、メディアとの上手な付き合い方や家庭でのルール作りのポイントについて、学んだり確認したりすることができた。これらを周知していくとともに、心配される児童に対し引き続き声をかけていく。</p>																				
評価指標（学校の実践課題）		具体的な取組内容																			
よりよい生活習慣の定着		<ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイル調査結果の周知と保護者の啓発 ・各種検診結果による保健指導 ・保健集会、学校保健委員会の実施 																			
望ましい食習慣の形成		<ul style="list-style-type: none"> ・給食指導の充実 ・食育授業の実施 																			
継続的な体力づくりの実践による体力の向上		<ul style="list-style-type: none"> ・朝マラソン・縄跳びの実施 ・新体力テストの結果分析と活用 ・業間運動や縦割り班遊びの計画と実施 																			
< 資料 >																					
児童	朝マラソンや、体力作り、なわとび等をがんばっています。	<table border="1" style="display: none;"> <caption>児童のアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>とても良い (4)</th> <th>大体良い (3)</th> <th>もう少し (2)</th> <th>まだまだ (1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12月</td> <td>21</td> <td>24</td> <td>4</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>14</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>47</td> </tr> </tbody> </table>				時期	とても良い (4)	大体良い (3)	もう少し (2)	まだまだ (1)	12月	21	24	4	47	7月	14	4	4	47	※4が最高値 アンケート平均 年度末 3.6 中間 3.7
時期	とても良い (4)	大体良い (3)	もう少し (2)	まだまだ (1)																	
12月	21	24	4	47																	
7月	14	4	4	47																	
保護者	お父さんは、健康のためによりよい生活習慣を身に付けている。(早寝早起き、バランスの良い食事、歯磨き、必要な治療等)	<table border="1" style="display: none;"> <caption>保護者のアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>とても良い (4)</th> <th>大体良い (3)</th> <th>もう少し (2)</th> <th>まだまだ (1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12月</td> <td>9</td> <td>43</td> <td>13</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>15</td> <td>37</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>				時期	とても良い (4)	大体良い (3)	もう少し (2)	まだまだ (1)	12月	9	43	13	10	7月	15	37	11	11	アンケート平均 年度末 2.9 中間 3.0
時期	とても良い (4)	大体良い (3)	もう少し (2)	まだまだ (1)																	
12月	9	43	13	10																	
7月	15	37	11	11																	
【朝運動】 マラソン・・・6月、9月 縄跳び・・・11月～12月		【保健集会】 6月・・・歯と口の健康 11月・・・子どものネット依存		【学校保健委員会】 学校医、保護者 生徒会役員、教員で協議を行った。																	

基本方向6 「子ども一人一人のニーズに応じた、きめ細かな教育の推進」

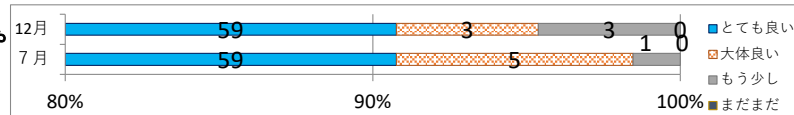
児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	支援が必要な児童を全職員が共通理解し、適切な支援を行えるように努めている。小中連携プロジェクトを通して、中学校と情報共有を図り連携を進めている。	中間	3	中間	3	先生方が、一人一人に応じた対応をしてくださっていることに感謝している。子どもたちが自信をもって活動しているように感じる。児童クラブへの支援もありがたい。
年度末	児童を語る会やケース会議、Q-U研修会を行うことで、児童についての共通理解を図ることができた。また、共有を考える会（熟議）の実施により、様々な立場の方と情報交換を行うことができた。	年度末	4	年度末	4	個々の児童や家庭環境に応じて対応してくれていると感じる。学校の時間だけではなく、いつも子どもたちを見守り、きめ細やかな対応をされていて感謝している。子どもが自信をもって学習に取り組んでいると思う。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】 児童を語る会の実施により、全職員で児童の現状や対応について情報共有を図り、支援に当たってきた。特に気になる児童については、適宜ケース会議を行うことで、具体的な支援方法を考え対応している。今後もQ-U検査や学校アンケート等を活用しながら、積極的生徒指導を心がけ、問題行動の未然防止に努めていきたい。また、「新かなやま運動」を活用した校種間連携もさらに進めていきたい。</p> <p>【年度末評価】 小規模校の強みを生かし、全職員が65名の児童を見取っていくという意識をもって指導に当たっている。児童を語る会やケース会議、Q-U研修会を効果的にいき、支援を必要とする児童や気になる児童についての共通理解を図ることができた。また、児童会が中心となつてなかよし集会を開いたり、各委員会や学級の特色を生かした、いじめ防止活動を行ったりしたことで、いじめや問題行動の未然防止に取り組んできた。さらに、生徒指導研修会を行ったことで、先生方の生徒指導に関する理解を深めることができた。</p>					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援委員会の充実 ・記録や協議による特別な支援を要する児童の理解と対応 ・就学前・小・中の情報の確実な引継ぎ
園・小・中の円滑な接続につながる効果的な連携	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中連携プロジェクトの各部の推進 ・小・中合同行事等の実施（運動会、学校保健委員会等） ・地域行事や交流会で、園・中との連携
不登校、問題行動等の未然防止のための取組と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会によるいじめ防止活動 ・学校アンケート ・定期的な児童を語る会の実施 ・Q-U検査 ・不登校児童生徒の全職員による対応と居場所づくり

<資料>

児童

小学校、中学校でかなやま運動を行っていることを知っています。

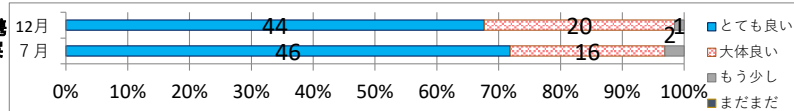


※4が最高値

アンケート平均
年度末 3.9
中間 3.9

保護者

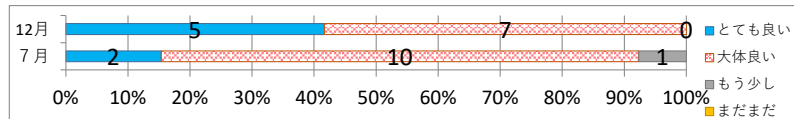
尾去沢小・中学校が連携して「かなやま運動」を実施していることを知っている。



アンケート平均
年度末 3.7
中間 3.7

職員

特別支援教育に関する研修や支援計画等の整備、児童の実態に合わせた指導が適切に行われている。



アンケート平均
年度末 3.4
中間 3.1



生徒指導研修会



なかよし集会（絆の輪作り）



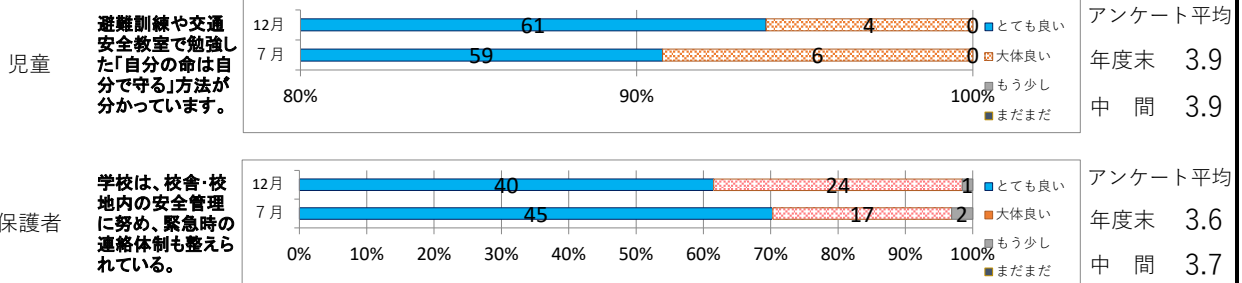
運営委員会によるいじめ防止の取組

基本方向7「子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場づくり」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	校舎の安全点検を実施することで、児童に安全な学びの場を提供できている。また、避難訓練等を通し、緊急時の行動について概ね理解している。	中間	4	中間	4	小学校の周りはいつもきれいに整備されている。校内の不備についても早急に整えてくれるので、安心で安全な学びの場が提供されている。児童クラブも避難訓練に参加させてもらい、イメージをもつことができている。
年度末	避難訓練を消防署と連携して行ったり、安全点検をローテーションで行ったりするなど、これまでの方法を見直して実施した。教職員及び児童の危機管理意識を高めるように努めている。	年度末	4	年度末	4	通学路や学校敷地内が整備されており、安心感を感じる。定期的な避難訓練は、災害時の対策がとれる状況を作っていると思う。クマも多く出たが、迅速な連絡、登下校の変更など対応してくれたと思う。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】 有事の際の行動について、避難訓練や学級活動等を通し、児童が考えることができた。5月に行った避難訓練では、地震や火事、不審者等の有事について全体指導を行い、実際に避難をする訓練を行った。その後も折に触れ、安全に関する指導に努めてきた。交通安全についても教員による日常的な指導、SGLとの下校指導を実施することで、交通安全についての意識を高めることができた。校地内の整備は、月1度の安全点検日に点検をしているほか、用務員が校内外の安全整備に努めている。</p> <p>【年度末評価】 避難訓練の際には、命を守る行動について児童が考えられるように事前・事後指導をしている。9月に行った火災想定避難訓練では、消防署員に訓練の様子を見てもらい、児童及び教職員に対して指導をしていただいた。指導内容については、全教職員で確認している。毎月行っている安全点検箇所を教職員でローテーションした他、児童にも点検に参加してもらうことで、児童目線で安全確認をすることができた。</p>					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
校舎・校地の日常的な点検・整備等による安全・安心な環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な草刈作業等・不備についての情報共有・対応 ・月1回(学校安全日)の点検・報告 ・教育委員会への修繕の依頼
通学路の点検と効果的な下校指導	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室(歩行・自転車)での体験を重視した指導 ・グループ登校と教職員が同行する下校指導、安全点検 ・スクールガードリーダーの協力
各種避難訓練の計画的実施と安全計画（危機管理マニュアル）の改善と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の避難訓練(①地震、②火災、③総合※児童のみの判断) ・事故防止教室(不審者、交通事故、クマ被害等、実態に合わせる) ・訓練等後の反省と安全計画の見直し・改善

<資料>



自動車学校での交通安全教室



SGLによる下校指導



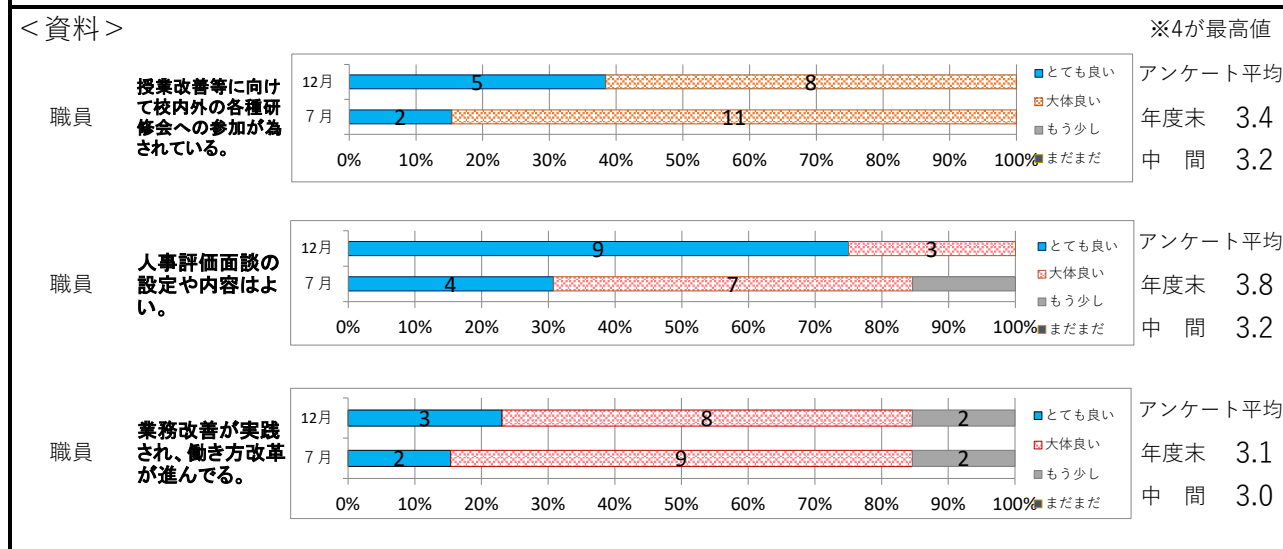
消防署と連携した避難訓練

基本方向8 「教職員のモチベーションと資質の向上」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	校内授業研究会や校外研修を通して、学び合いの充実に向けて研修を深めている。業務改善に向けた取組を進めていきたい。	中間	3	中間	3	目標を明確化できるように面談を行ったり、研修を重ねたりと様々な取組がなされている。どの先生もテキパキとしており、気さくに声をかけてくれることがありがたい。
年度末	鹿角小学校授業研究会に向けた校内研修で、互いに授業を見合ったり、授業計画を協力して立てたりし、授業改善に努めてきた。校外研修の内容を全職員で確認する時間も設けている。	年度末	4	年度末	4	どの先生方も明るくさわやかなイメージで声を掛けやすい。協力的な雰囲気が漂っている。子どもだけでなく先生方も目標を明確にできるよう面談が行われていることは良いと思う。時代にあった働き方改革も、質の向上につながると思う。

自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】 学び合いを充実させ、深まりのある授業を目指して研修を積み重ねている。理科と生活科の授業研究会を行い、授業改善に向けた研修を行うことができた。また、職員が各自今年度の到達目標を明確にできるように、人事評価面談を行っている。働き方改革の意識は昨年度同様に高く、全職員が最終退勤時刻を守って業務に励んでいる。教育の質を向上させるとともに、業務の精選や効率化に務めていきたい。</p>
	<p>【年度末評価】 鹿角小学校授業研究会では、1年生活科と6年理科の授業をオンデマンドで公開した。学び合いを充実させ、深まりのある授業を目指して研修してきたことを、児童の姿を通して発信することができた。参観した他校の教員からも高い評価をいただいている。校外研修については、参集型だけでなくオンライン方式も活用し、教職員の研修の機会を保障している。働き方改革について、教職員から改善できる内容と施策を考えてもらい、来年度に向けて整備しているところである。</p>

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
主体的に学び、共に高め合い、分かる楽しさを実感できる子どもを育成する校内外の研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 一人一研究授業、授業を見合う会の実施 校外研修の奨励
人事評価制度を活用した各キャリアに応じた研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 管理職と教職員全員との人事評価面談による、個々の目標と成果の明確化
業務改善計画による教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 在校時間記録簿を活用した勤務時間、持ち帰り仕事の把握と改善 業務内容の精選と効率化 一斉退校日の設定 会議の精選と短縮化 学年通信の隔週発行 等

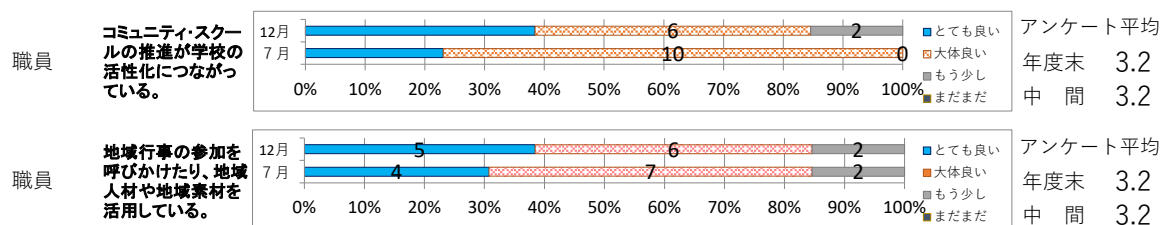


基本方向9 「地域とともに特色ある学校づくりの推進」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	尾去沢地区学校運営協議会が3年目となり、内容も充実してきている。尾去沢市民センターや学校支援ボランティア、民生児童委員など、地域の協力を得ることができている。	中間	3	中間	3	子どもたちを見守る環境ができていて、地域の方との関係が密であると感じる。保護者や地域ボランティア募集の時期を早めにすると共に、内容についても明確にしてくれると もっと集まるのではないかな。
年度末	尾去沢地区学校運営協議会、熟議、共育講演会を計画通りに実施することができた。様々な立場の方々からのご意見を学校運営に生かすことができている。また、今年度は害獣や害虫対策のため、多くの地域の方々からご協力をいただいたことに感謝している。	年度末	3	年度末	3	学校運営協議会や共育を考える会（熟議）など、様々な立場からの考えを聞くことで、学校運営に生かす取組は良いと思う。民生委員の活動もしやすくなった。地域であいさつを交わす姿が自然であり、小学校で身に付けた力が中学校に進学しても見られるのが嬉しく、尾去沢の特色となっているように感じる。これからも多くの地域の方々と交流を深めてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】 尾去沢中学校と連携して、尾去沢地区学校運営協議会を行うことができている。尾去沢市民センターのふれあいなやまスクールでは、児童のふるさと・キャリア体験に協力をしていただいている。学校支援地域ボランティアからは、クラブの講師、交通安全教室やプール清掃、体力テストの補助、民生児童委員からは、動物が出没した際の登下校の見守りなど、児童の活動を支えていただいている。今後も、多くの地域の方々と触れ合うことで、地域の良さを実感できるようにしていきたい。</p> <p>【年度末評価】 今年度も尾去沢市民センター、民生児童委員さんをはじめとして、たくさんの地域住民の方々からご協力をいただき、ありがたかった。尾去沢市民センターと連携して行っている「ふれあいなやまスクール」では、児童の意見を取り入れていただいたことで充実した活動となっている。学校教育活動に協力していただいた方々へ感謝の気持ちを表す「ありがとう集会」も、従前のような形で行うことができた。今後も、児童が「地域に笑顔と元気を発信する」という意識を高められるような活動を行っていきたい。</p>					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
学校運営協議会の充実、熟議の内容や学校評価結果を生かした経営改善の推進、保護者・地域への積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の充実 ・熟議の内容や学校評価結果を生かした経営改善の推進 ・保護者・地域への積極的な情報発信
地域人材やボランティア、地域素材の積極的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材や地域素材の発掘と活用 ・尾去沢市民センターや学校支援ボランティアとの連携
特色ある学校経営の推進と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色を生かした学習の充実と、年2回の学校評価の実施

<資料>



共育を考える会 ～熟議～



ふれあいなやまスクール（1・2年昔遊び）



ありがとう集会